

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者: 70代 女性

病 名:両側性中大脳動脈塞栓症、右尾状核前頭側頭葉梗塞、  
左尾状核比較梗塞

利用サービス: 入所

経 過:リクライニング車椅子にて入所された。立位、座位を保つことが出来なかった。移乗、トイレは二人介助。食事は舌の運動悪く口先にため込んでしまい飲み込むことが困難だった。

## 内 容

元ダンス講師の70代女性。リクライニング車椅子で入所され、起居・移乗は全介助、排泄はオムツ対応でトイレは二人介助であった。

入所直後に開催されたクリスマス会では職員によるハンドベル演奏に涙を流されていた。

元ダンス講師という職歴に注目した介入を心がけるきっかけとなった。

娘様との面会の際に初孫の写真を見て感動され、自宅に帰って孫を抱くことを目標にリハビリを頑張っていた。

やせ型の氏にとって食べることは重要なリハビリの一つ。舌の動きが悪く送り込み困難で口先に溜め込みが顕著であった。食前の口腔体操を日課とし、口腔周囲筋のトレーニングとしてパタカラを導入。積極的な発語の促しも行った。

22日後にはとろみが大から中になり、35日後には小とろみに変更することができた。全介助であった食事でも柄の長いスプーンを使用することでご自身で食べることも可能となった。

元ダンス講師ということもあり、体操には積極的に笑顔で参加される姿が毎日見られた。

普通型の車いすに座れるようになり、椅子座位も可能となった。

手すりを持つての5分間の立位保持が可能となったことでトイレが一人介助で行えるようになった。ご家族の面会時に「こんなに良くなるとは思わなかった」うれしいお言葉を頂くことができた。

毎朝職員に笑顔で挨拶され、歯磨きも一人で出来、楽しそうに自分らしく生活できている姿をみてスタッフも幸せな気分になりました。